

1 事業概要

事業名	県営林道開設事業 白滝線
事業場所	下関市豊北町大字田耕・粟野、長門市油谷伊上
事業主体	山口県
事業期間	昭和 62 年度 ~ 平成 30 年度 (西暦 1987 年度 ~ 西暦 2018 年度)
総事業費	4,409 百万円
事業目的	下関市豊北町田耕・粟野、長門市油谷伊上地域の基幹林道として、利用区域内の適切な森林施業の推進、林業生産性の向上、林業就労条件の改善を目指すことにより、整備後は水源かん養などの森林の持つ公益的機能の持続的な発揮や森林浴等のレクリエーションの場へのアクセス道として、地域振興にも寄与することを目的とする。
事業内容	林道開設 幅員 4.0m 延長 15.7km

2 事後評価の視点

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【費用対効果分析】

区 分	事業採択時・計画変更時・再評価時
評価基準年	平成25年度
事業費	4,288 百万円
工期	S62年度 ~ H28年度
費用便益比	B/C= 1.1

【要因変化の分析】

- ・事業費は、121百万円の増額となった。
- ・工期は、2年延長となった。
- ・これらの要因変化を反映した結果、費用便益比は1.1となる。

(2) 事業の効果の発現状況

【事業の効果の発現状況】

- ・基幹となる道が完成したことにより、人工林が多く、特に伐採時期を迎えたヒノキを中心とした区域で作業道の整備が進み、間伐材を利用する「搬出間伐」の取組が進展、森林所有者の意欲の高まりとともに森林施業が進んでいる。
- ・下関市豊田地域と長門市油谷地域が最短経路で連絡し、生活道としての利用や県道等の緊急時の迂回路としての利用が可能となっている。
- ・林道の管理は、県から地元下関市、長門市へ全て移管され、適切に維持管理されている。

【事業の効果の発現状況に対する評価】

- ・林道を整備することにより適切な森林整備が行われ、水源のかん養など森林の持つ公益的機能の持続的発揮に寄与している。
- ・集落間や地域間を連絡することで地域交通が改善されたことから、地域振興に寄与している。

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

- ① 自然環境への影響
野生動植物の生育・生育環境の悪化、溪流における流量の減少などの影響は見受けられない。

- ② 生活・住環境等への影響
下関市と長門市を連絡する幹線道路として、中山間地域の生活利便性の向上に寄与し、災害時の避難路や代替道としての役割が期待できる。

- ③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）
切土、盛土部の法面は、速やかに緑化を行い、法面の安定及び良好な景観を確保している。

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

- ① 社会経済状況及び事業環境等の変化
 - ・本林道の整備による木材輸送力が強化されたことで、切り捨てていた間伐材の搬出・利用や、主伐が可能となり、地域の森林施業が一層進むとともに、中山間地域の居住環境の改善に寄与している。
 - ・こうした木材利用の機運の高まりを受け、平成27年度に西部バイオマスセンター（下関市）が開設されるとともに、令和5年度には山口県森林組合連合会西部共販所（美祢市）が供用を開始している。
 - ・下関市、長門市地域の森林整備等の中心的担い手となる森林組合（山口県西部森林組合）による一体的な森林整備が期待される。

- ② 関連計画・関連事業の状況の変化
 - ・関連計画、関連事業ともになし。

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

(6) 改善措置の必要性

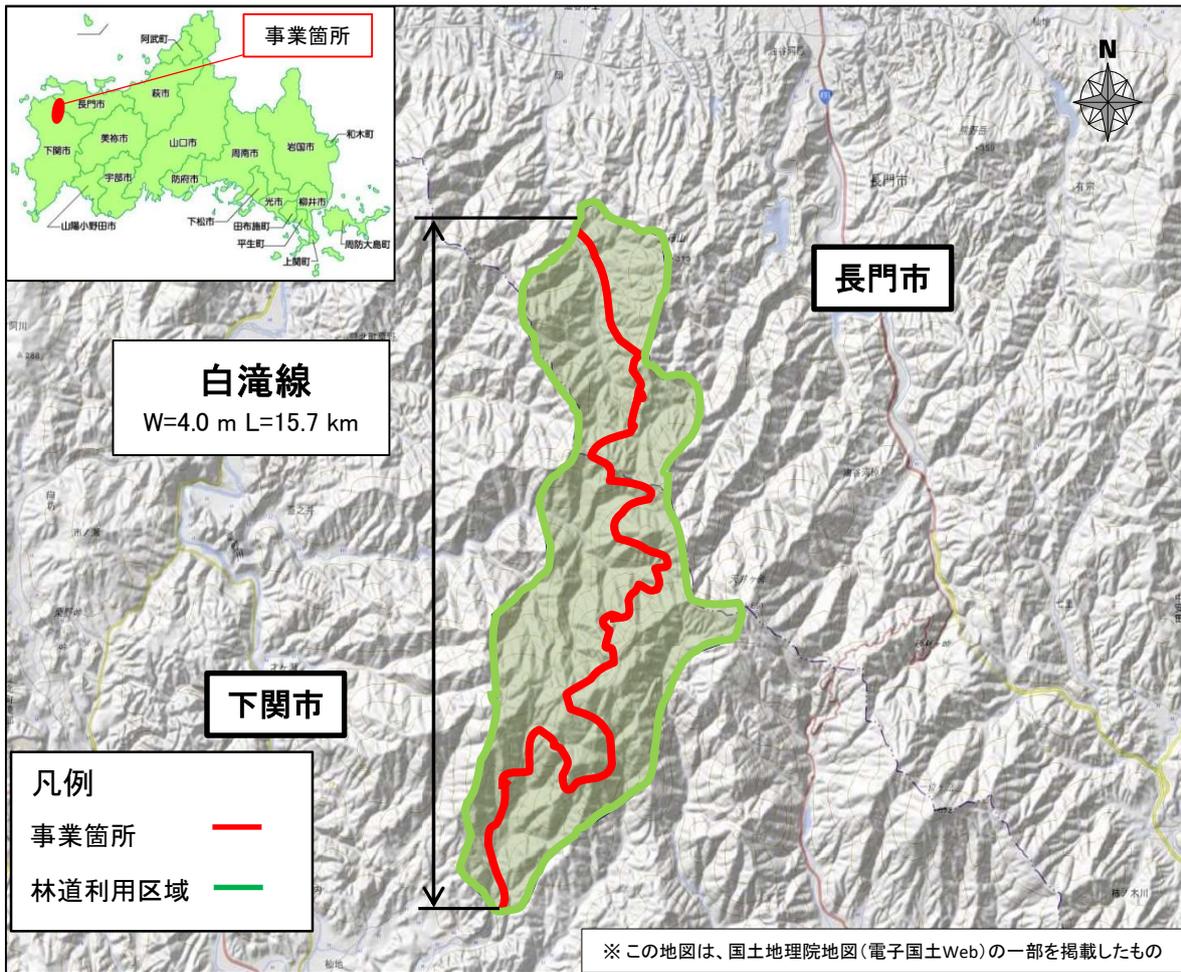
なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

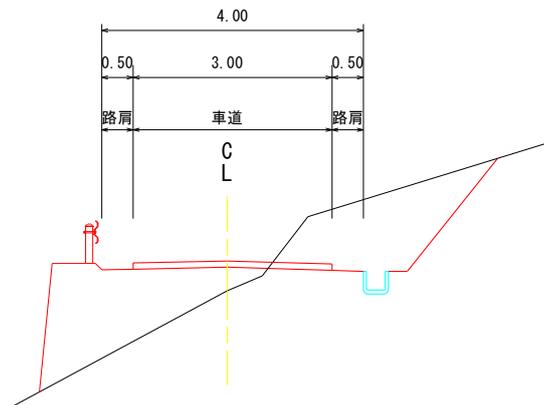
なし

林道 白滝線

平面図



標準断面図



写真

